

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		前野 一夫		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人片柳学園		平成25年3月1日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111		
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士	
文化・教養	芸術専門課程		スポーツ健康学科 ウェルネスインストラクターコース/ スポーツインストラクターコース			平成26年文部科学大臣 告示第7号	-	
学科の目的	スポーツを通じて広く社会に貢献できる人材の育成を目的に、各自の目標に合わせた構成をしています。スポーツインストラクターコースでは、フィットネス指導者として、マシン、スタジオプログラム、健康運動指導者領域など多くの指導スキルのほか、マリン・スノー、アウトドアなどを学びます。スポーツコーチングコースは、インストラクターコースの学習に加え、スポーツ栄養、メンタル、パフォーマンスマネジメント（測定評価）を学びます。							
認定年月日	平成28年2月19日							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700時間	735時間			2955間		
		単位時間						
生徒総定員		生徒実員		留学生生数（生徒実員の内数）	専任教員数	兼任教員数		総教員数
240人		216人の内数		2人	8人	63人		71人
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価		■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定		
長期休み	■学年始：4月1日～ ■夏季：7月21日～8月31日 ■冬季：12月23日～1月9日 ■学年末：3月18日～3月31日			卒業・進級 条件		進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること		
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動		■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動：有		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等（平成29年度卒業生） 株式会社ウェルネスフロンティア 株式会社エイチアンドビーニューオータニ トータルワークアウトプレミアムマネジメント株式会社 株式会社ベンチャーバンク 株式会社ロンド・スポーツ			主な学修成果 （資格・検定 等） ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 （平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報）		
	■就職指導内容 就職模擬試験、就職ガイダンス開催 履歴書添削、模擬面接開催					資格・検定名種別受験者数合格者数		
	■卒業者数23人					健康運動実践指導者③64人31人		
	■就職希望者数20人					水泳指導員③8人8人		
	■就職者数20人					ジュニアスポーツ指導員③2人2人		
	■就職率100.0%							
■卒業者に占める就職者の割合 ：87.0%			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）					
■その他 ・進学者数：0人			■自由記述欄					
（平成29年度卒業生に関する 平成30年5月1日時点の情報）								

中途退学の現状	■中途退学者 2 名 ■中退率 3.6 % 平成29年4月1日時点において、在学者56名（平成29年4月1日入学者を含む） 平成30年3月31日時点において、在学者54名（平成30年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 経済的問題、友人関係 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。また、休学者にも復学（転科等）の指導・助言・相談もを行っている。
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： (有)・無 ・片柳学園入学学金免除制度・片柳学園創立70周年記念奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度 ・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生・IT資格特待生 ■専門実践教育訓練給付： 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： (有)・無 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日) 受審 http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/
当該学科のホームページURL	http://www.neec.ac.jp/department/

（留意事項）

1. 公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
- ③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（１）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

スポーツを通じて広く社会に貢献できる人材を育成するために、企業等と連携体制を確保して適宜ヒアリングを行い、指導者になるためのスキルの向上や、健康にかかわる栄養やメンタルに関することなどについて内容を検討し、カリキュラムに反映する。そのため、校内の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をスポーツ業界より選定している。

（２）教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各３名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

（３）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	①
夏刈 竜平	株式会社レテ	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	③
角田 好則	住友不動産エスフォルタ	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	③
前野 一夫	日本工学院八王子専門学校 校長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	
三樹 春幸	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	
伊藤 茂彦	日本工学院八王子専門学校 科長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 課長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（４）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年２回 （３月・９月）

（開催日時（実績））

第１回 平成29年7月19日 13：00～15：00

第２回 平成30年2月27日 13：00～15：00

（５）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育全般に意見を反映。短期的・中長期的に分けて実施。「MFCスタッフ実習」を中心に実習授業の強化により人間力向上に努めている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係								
（１）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 フィットネスクラブで業務をするうえで必要な基礎知識を学ぶとともに実践的な指導を受けるために、連携企業が有しているトレーニング機器の効率的な使用方法、応用方法が学べる企業を選定している。また指導を受けるにあたっては各分野で必要となる知識、技術、制作管理能力を有している講師の派遣などの協力が得られることが可能な企業を選定している。。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。								
（２）実習・演習等における企業等との連携内容 スポーツのインストラクター・コーチングが実践できるよう、実技・実演を軸に学ぶ。ストレッチング、補強運動、フィットネストレーニング、筋力トレーニング（マシントレーニング）、整理体操などの基本テクニックについて学びながら、自らのトレーニングに対する取組や経験が指導者にとっては重要なので重点的に実施し、評価に換算する。 また、安全に効果的な指導ができ、職業人としてあるまじき言葉使いや立ち振る舞い等の人間教育も含めて授業態度等も評価に含める。企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。								
（３）具体的な連携の例※科目数については代表的な５科目について記載。 <table border="1"> <tr> <th>科 目 名</th><th>科 目 概 要</th><th>連 携 企 業 等</th></tr> <tr> <td>MFCスタッフ実習１</td><td>MFCを利用してトレーニングルームの運営方法やクライアントとの接し方、法的問題について学びます。</td><td>テクノジムジャパン株式会社</td></tr> </table>			科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等	MFCスタッフ実習１	MFCを利用してトレーニングルームの運営方法やクライアントとの接し方、法的問題について学びます。	テクノジムジャパン株式会社
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等						
MFCスタッフ実習１	MFCを利用してトレーニングルームの運営方法やクライアントとの接し方、法的問題について学びます。	テクノジムジャパン株式会社						
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係								
（１）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。								
（２）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 １）研修名「スポーツ指導者育成の展望」 （連携企業等：日本体育協会スポーツ指導者育成部 江橋千晴） 期間：平成29年9月20日 14:00-17:00 今後のスポーツ指導者制度とスポーツ指導者の資質向上について ２）研修名「スポーツとIOT・ICT」 ①専攻分野における実務に関する研修等 １）研修名「スポーツ指導者育成の展望」 （連携企業等：日本体育協会スポーツ指導者育成部 江橋千晴） 期間：平成29年9月20日 14:00-17:00 今後のスポーツ指導者制度とスポーツ指導者の資質向上について ２）研修名「スポーツとIOT・ICT」 （連携企業等：（有）Wellness Sports 代表 齊藤 邦秀） 期間：平成30年3月24日15:00－17:00 インターネットを介したクライアントの管理・スポーツ指導の方法（事例を中心に） ②指導力の修得・向上のための研修等 １）研修名「想像力強化の指導について」 （連携企業等：株式会社イッツ 久保田 達也） 期間：平成29年9月14日 14:00－17:00 アイデアを創造するワークショップ ２）研修名「ファシリテーション」 （連携企業等：トレランスアクト株式会社 代表取締役 前原 恵子） 期間：平成30年3月26日13:00－17:00 共同作業における効率的・発展的な思考とコミュニケーション								

(3) 研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 1) 研修名「フィットネス×IoT」 (連携企業等：テクノジムジャパン株式会社HCP事業部長 藤本 浩也) 期間：平成30年8月10日15:30－17:30 最新の健康管理における手法と事例 2) 研修名「スポーツとAI・IoT・ICT (案)」 (連携企業等：テクノジムジャパン株式会社 (案)) 期間：12月～3月を予定 インターネットを活用した、最新の健康管理・モチベーションの維持・向上を図る手法と事例 ②指導力の修得・向上のための研修等 1) 研修名「教育現場に必要なコーチングコミュニケーション1」 (連携企業等：株式会社WACアカデミー 野本 知里) 期間：平成30年6月24日15:30－17:30 コーチングの考え方と伝え方 2) 研修名「教育現場に必要なコーチングコミュニケーション2 (案)」 (連携企業等：株式会社WACアカデミー (案)) 期間：12月～3月を予定 第1回目を踏まえたコーチングの考え方と伝え方																									
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係																									
(1) 学校関係者評価の基本方針 専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。 学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする																									
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th><th>学校が設定する評価項目</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 教育理念・目標</td><td>(1)理念・目的・育成人材像</td></tr> <tr> <td>(2) 学校運営</td><td>(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム</td></tr> <tr> <td>(3) 教育活動</td><td>(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織</td></tr> <tr> <td>(4) 学修成果</td><td>(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価</td></tr> <tr> <td>(5) 学生支援</td><td>(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人</td></tr> <tr> <td>(6) 教育環境</td><td>(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理</td></tr> <tr> <td>(7) 学生の受入れ募集</td><td>(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金</td></tr> <tr> <td>(8) 財務</td><td>(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開</td></tr> <tr> <td>(9) 法令等の遵守</td><td>(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33) 個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開</td></tr> <tr> <td>(10) 社会貢献・地域貢献</td><td>(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動</td></tr> <tr> <td>(11) 国際交流</td><td></td></tr> </tbody> </table> ※(10)及び(11)については任意記載。		ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像	(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム	(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織	(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価	(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人	(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理	(7) 学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金	(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開	(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33) 個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開	(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動	(11) 国際交流	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目																								
(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像																								
(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム																								
(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織																								
(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価																								
(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人																								
(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理																								
(7) 学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金																								
(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開																								
(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33) 個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開																								
(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動																								
(11) 国際交流																									
(3) 学校関係者評価結果の活用状況 教員の研修体制を整えて欲しいという意見があり、自発的な能力開発及び向上を目的として今年度新設した「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を活用していく。中途退学の理由として経済的理由が挙げられているが、ファイナンシャルプランナーの活用をしてはどうかとの意見から、自己啓発支援制度を利用した職員の資格取得を促し、学生へのサポート体制の充実を図る。また、学生へのSNSのマナー等に関しても指導を徹底していく。 教員の労働環境改善、メンタルケアなどサポート等の充実のため「ヘルスサポートセンター」等の学生および教員のサポート体制の確立を引き続き検討する。なお、昨年度から導入した教員の変形労働時間制度を活用し労働環境の更なる改善をはかる。																									

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループ マネージャー)	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	卒業生／IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	地域関連
三井 隆裕	株式会社NVC(ヌーベルバーグカンパニー) 代表取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 企画推進室 室長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 () 平成30年9月15日

URL : <http://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、平成29年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程　スポーツ健康学科　ウェルネスインストラクターコース／スポーツインストラクターコース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ビジネススキル 1	社会人になるために必要なヒューマンスキルを身につけます。	1・ 前	30	2	○			○				
○			ビジネススキル 2	社会人になるために必要なコミュニケーション能力などを身につけます。	1・ 後	30	2	○			○		○		
○			PC活用 1	マイクロソフト認定Word資格取得に向けて、必要な基礎知識を学びます。	1・ 前	30	1			○	○			○	
		○	PC活用 2	マイクロソフト認定Excel資格取得に向けて、必要な知識を学びます。	1・ 後	30	1			○	○			○	
○			人材研修プログラム	4月のオリエンテーション期間中などを利用し、スポーツクラブなどのコースに特化した特別講師を招いて研修を行います。	1・ 前	15	1	○			○			○	
○			予防とコンディ ショニング 1	コンディショニングの把握・管理・方法と実際について学びます。また競技特性に応じたコンディショニングや環境整備についても学びます。	1・ 前	30	1			○	○		○	○	
○			解剖学概論	骨格、筋肉、心臓、血管、呼吸器、神経などの構造と機能について学びます。	1・ 前	30	2	○			○		○		
		○	アウトドア フィットネス 1	キャンパス・学外などを利用して、屋外でのフィットネス（健康運動）について学びます。	1・ 後	30	1			○	○			○	
		○	アウトドア フィットネス 2		1・ 前	30	1			○	○			○	
○			ダンスフィット ネス 1	スポーツクラブや小学校でも必須となっているダンスのスタイルを取り入れたプログラムを筆頭に、スタジオプログラムの知識・技術について幅広く学びます。	1・ 後	30	1			○	○			○	
○			ダンスフィット ネス 2		1・ 前	30	1			○	○			○	
○			ストレンクス& コンディショニ ング理論 1	ストレンクス&コンディショニングプログラムを作成するための基礎知識を学びます（フィットネスエクササイズと安全も含む）。	1・ 後	30	2	○			○		○	○	
○			ストレンクス& コンディショニ ング理論 2	目的に応じたストレンクス&コンディショニングプログラムの作成能力やカウンセリング能力を養います。	1・ 前	30	2	○			○		○	○	
○			ストレンクス& コンディショニ ング実技 1	準備運動、ストレッチング、補強運動、フィッネストレーニング、筋力トレーニング（マシントレーニング）、整理体操などの基本テクニックについて学びます。	1・ 後	30	1			○	○		○	○	
○			ストレンクス& コンディショニ ング実技 2	マシンやフリーウエイトを使用した筋力トレーニング、サーキットトレーニング、アジリティトレーニングなどの基本テクニックについて学びます。	1・ 前	30	1			○	○		○	○	
		○	スポーツ自由研 究A	体育祭の実行委員経験をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・ 後	30	1			○	○		○		
		○	スポーツ自由研 究B	紅華祭実習参加をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・ 前	30	1			○	○		○		
○			レクリエーショ ンスポーツ	スポーツ指導の現場でのレクリエーションの考え方と、さまざまな場面での運動方法を学びます。	1・ 前	30	1			○	○		○	○	
○			スイミングA	水泳の特性について理解し、レベル別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1・ 前	30	1			○	○		○	○	

		○ 球技	バレーボールやバスケットボールの特性について理解し、年齢別に に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1・ 前	30	1			○	○			○	
○		陸上	陸上、ジョギング・ウォーキングの特性について理解 し、年齢別にに応じた的確な指導が行える能力を養いま す。	1・ 前	30	1			○	○			○	
		○ 野球	野球の特性について理解し、年齢別にに応じた的確な指導 が行える能力を養います。	1・ 前	30	1			○	○		○	○	
		○ キャンプインス トラクター実習 A	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、 キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャン プの基礎を学習します。	1・ 前	30	1			○	○			○	
		○ マリン実習A	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を 理解します。	1・ 前	30	1			○		○		○	
		○ フィンワーク実 習	プールにて3点セット（マスク、フィン、スノーケル） を使用し、フィンワーク（泳ぎ方、素潜り）技術を養いま す。	1・ 前	30	1			○		○		○	
		○ 初級ダイビング 実習	スクーバダイビング「オープンウォーター」資格取得の ために必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じ て学びます。	1・ 前	30	1			○		○		○	
		○ アウトドア実習 A	オートキャンプ、カヌー、トレッキングなどのアウトド アライフの組立てについて、実習を通じて学びます。	1・ 前	30	1			○	○			○	
		○ 短期海外研修A	海外において人体解剖、テーピング、コンディショニン グなどの実習を体験し、最新のトレーナー教育について の理解を深めます。	1・ 前	60	2			○	○			○	
○		スポーツ医学概 論	スポーツと健康、スポーツ活動中に多いケガや病気、ア スリートの健康管理と内科的障害と対策、呼吸循環器系 の働きとエネルギー供給、アンチドーピング、スポーツ による精神障害などについて学びます。	1・ 後	15	1	○				○	○	○	
○		栄養学	スポーツと栄養、アスリートの栄養摂取と食生活につ いて学びます。	1・ 後	15	1	○				○		○	
○		スポーツ栄養 1	各種スポーツスキルの向上を目的として、栄養面での指 導スキルについて学びます。	1・ 後	15	1	○				○		○	
		○ トレーニング科 学 1	競技者育成と評価、競技者育成システムにおける指導計 画、競技力向上のためのチームマネジメント、競技ス ポーツとIT、体力とは、トレーニングの進め方、トレー ニングの種類について学びます。	1・ 後	15	1	○				○		○	
○		運動生理学	スポーツ活動と体力、運動体としての身体の構造と機能 について学びます。	1・ 後	30	2	○				○		○	
○		健康運動実践指 導者対策 1	健康運動実践指導者資格取得のための知識・技術を学 びます。	1・ 後	30	2	○				○	○	○	
○		コーチ学	スポーツ指導者とは、指導者の心構え・視点、競技者育 成プログラムの理念、指導計画の立て方、スポーツ活動 と安全管理、スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的 責任などについて学びます。	1・ 後	30	2	○				○		○	
		○ トレーニング実 技 1	健康美やスタイル形成など、各自の目的に応じたトレー ニングを実践で学びます。	1・ 後	30	1			○	○		○	○	
		○ 体操	体操（マット運動、跳び箱など）の基礎技術と指導法を 学びます。	1・ 後	30	1			○	○			○	
○		メンタルスキル 1	各種スポーツスキルの向上を目的として、メンタル面で の指導スキルについて学びます。	1・ 後	15	1	○			○			○	
○		パフォーマンス マネジメント基 礎	各種スポーツのパフォーマンス向上を目的としたスキル を学びます。	1・ 後	15	1	○			○			○	
		○ 訪問介護員講習	介護職員初任者研修課程（旧ホームヘルパー 2 級）取得 のための知識と技術を学びます。	1・ 後	150	5			○	○			○	
		○ スキー実習A	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル 別パッチ検定を実施します。	1・ 後	30	1			○	○			○	
		○ スノーボード実 習A	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。 レベル別パッチ検定を実施します。	1・ 後	30	1			○	○			○	

	○	中級ダイビング実習	スクーバダイビング「アドバンスダイバー」資格取得のために必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。	1・後	30	1			○	○			○	
○		パーソナルウェルネス演習1	クラウドシステムやウェアラブルデバイスの基礎知識や技術を習得します。	1・後	30	1			○	○			○	○
○		パーソナルウェルネス演習2	クラウドシステムやウェアラブルデバイスの活用方法を習得します。	1・後	30	1			○	○			○	○
	○	MFCスタッフ実習1	MFC（メディカルフィットネスセンター）スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。	1・通	120	4			○	○			○	○
	○	日本赤十字社救急法A	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	1・通	30	1			○	○			○	
	○	社会体育実習A	学外などにおいて現場の実践的な経験を積み、指導者としての資質を高めます。	1・通	60	2			○	○			○	
	○	業界理解研修	外部などの研修に参加することにより、業界の動向や基礎知識の理解を深めます。	1・通	15	0			○	○			○	
	○	キャリアアップセミナーA	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	15	0			○		○		○	
	○	キャリアアップセミナーB		1・通	30	1			○		○		○	
	○	キャリアアップセミナーC		1・通	45	1			○		○		○	
	○	キャリアアップセミナーD		1・通	60	2			○		○		○	
○		ビジネススキル3	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	2・前	30	2	○			○		○		
○		ビジネススキル4		2・後	30	2	○			○		○		
○		フィットネストレーニング1	幼児体育指導法に基づき、キッズスポーツについての知識、技術を学びます。	2・前	30	1			○	○			○	○
○		フィットネストレーニング2	中高年を対象として、個人の特性に応じた的確な運動指導が行える能力を養います。	2・前	30	1			○	○			○	○
	○	フィットネストレーニング3	フィットネスチェック、心拍センサーを利用したグループエクササイズなどについての知識、技術について学びます。	2・前	30	1			○	○			○	○
○		フィットネストレーニング4	幼児体育指導法に基づき、キッズスポーツについての知識、技術を学びます。	2・後	30	1			○	○			○	○
○		フィットネストレーニング5	中高年を対象として個人の特性に応じた的確な運動指導が行える能力を養います。	2・後	30	1			○		○	○	○	
	○	フィットネストレーニング6	フィットネスチェック、心拍センサーを利用したグループエクササイズなどについての知識、技術について学びます。	2・後	30	1			○	○			○	○
○		スタジオプログラム1	スポーツクラブでは主流のスタジオプログラム。エアロビックダンスからパワーヨガ、マットピラティスなどその種類は多種多様です。スタジオプログラムの主要な運動についての知識、技術について基礎を学びます。	2・前	30	1			○	○			○	
○		スタジオプログラム2		2・後	30	1			○	○			○	
	○	アウトドアフィットネス3	キャンパス・学外などを利用して、屋外でのフィットネス（健康運動）について学びます。	2・前	30	1			○	○			○	
	○	アウトドアフィットネス4		2・後	30	1			○	○			○	
	○	ダンスフィットネス3	スポーツクラブや小学校でも必須となっているダンスのスタイルを取り入れたプログラムを筆頭に、スタジオプログラムの知識・技術について幅広く学びます。	2・前	30	1			○	○			○	
	○	ダンスフィットネス4		2・後	30	1			○	○			○	
	○	トレーニング実技2	健康美やスタイル形成など、各自の目的に応じたトレーニングを実践で学びます。	2・前	30	1			○	○			○	○
	○	トレーニング実技3		2・後	30	1			○	○			○	○

		○	リラクゼーション1	トレーニング・運動後のリラクゼーションをはじめとするボディケアについて、知識と技術を学びます。	2・前	30	1			○	○		○		
		○	リラクゼーション2		2・後	30	1			○	○		○		
		○	スポーツ自由研究C	体育祭の実行委員経験をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・前	30	1			○	○		○		
		○	スポーツ自由研究D	紅華祭実習参加をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・後	30	1			○	○		○		
		○	パーソナルウェルネス演習3	クラウドシステムやウェアラブルデバイスを活用した指導知識を学びます。	2・前	30	1			○	○		○	○	
		○	パーソナルウェルネス演習4	クラウドシステムやウェアラブルデバイスを活用した指導技術を習得します。	2・前	30	1			○	○		○	○	
		○	パーソナルウェルネス演習5	フィットネスクラブを想定し、利用者心理などを考慮した指導知識を学びます。	2・後	30	1			○	○		○	○	
		○	パーソナルウェルネス演習6	フィットネスクラブを想定し、利用者心理などを考慮した指導技術を習得します。	2・後	30	1			○	○		○	○	
		○	ストレンクス&コンディショニング理論3	ストレンクス&コンディショニング理論1・2で学んだ知識を活用しながら、パーソナルトレーナーとしての知識と総合力を養います。	2・前	30	2	○			○		○	○	
		○	フィットネストレーナー演習	メディカルフィットネスセンターを利用して、トレーニングルームの運営方法やクライアントとの接し方、法的問題について学びます。	2・前	30	1			○	○		○	○	
		○	バイオメカニクス	トレーニング理論とその方法、トレーニング計画とその実際、体力テストとその活用、スキルの獲得とその獲得過程、スポーツバイオメカニクスの基礎を学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ経営学	スポーツ組織の運営、スポーツ事業の計画・運営・評価、地域スポーツクラブの機能と役割、広域スポーツセンターの機能と役割、地域におけるスポーツ振興方策と行政の関わり、我が国のスポーツ振興施策について学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
○			健康教育学	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴、発育発達期に多いケガや病気、発育発達期のプログラムなどについて学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
		○	社会体育概論	スポーツとは、文化としてのスポーツ、社会の中のスポーツ、障害者とスポーツについて学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
○			スポーツ栄養2	各種スポーツスキルの向上を目的として、栄養面での指導スキルについて学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
○			健康運動実践指導者対策2	健康運動実践指導者資格取得のための知識・技術を学びます。	2・前	60	4	○			○		○	○	
○			メンタルスキル2	各種スポーツスキルの向上を目的として、メンタル面での指導スキルについて学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
○			パフォーマンスマネジメント実習	パフォーマンスマネジメント基礎で学んだスキルをもとに、指導実践方法について学びます。	2・前	30	1			○	○			○	
○			スポーツ心理学	スポーツと心、スポーツにおける動機づけ、コーチングの心理、メンタルマネジメント、指導者のメンタルマネジメント、スポーツ相談の意義、スポーツ相談の実際、子どもたちを取り巻く問題点と運動・スポーツの必要性などについて学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
○			体力測定法	体力測定の方法、測定結果の処理、体力評価とスポーツプログラムについて学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
		○	スイミングB	フォームの矯正を行い、模範となる泳法、横泳ぎを習得。さらに集団・個人の指導法の実習、指導計画の立案評価、心肺蘇生法について学びます。	2・前	45	1			○	○			○	
		○	キャンピングストラクター実習B	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	2・前	30	1			○	○			○	

	○	スノーケリング実習A	スノーケリングインストラクター資格取得のために必要な知識・技術について学びます。	2・前	30	1			○	○			○	
	○	マリン実習B	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	2・前	30	1			○	○			○	
	○	上級ダイビング実習	スクーバダイビング「ダイブマスター」資格取得のために必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。	2・前	30	1			○	○			○	
	○	アウトドア実習B	オートキャンプ、カヌー、トレッキングなどのアウトドアライフの組立てについて、実習を通じて学びます。	2・前	30	1			○	○			○	
	○	短期海外研修B	海外において人体解剖、テーピング、コンディショニングなどの実習を体験し、最新のトレーナー教育についての理解を深めます。	2・前	60	2			○		○		○	
	○	健康運動実践指導者対策3	健康運動実践指導者資格取得のための知識・技術を学びます。	2・後	60	4	○				○		○	
	○	スポーツコーチングインターン	スポーツコーチングの現場でインターンシップ活動を行います。	2・後	15	0			○		○		○	
○		卒業研究	最終学年の期間において、在学中の成果を企画・準備・運営（発表）します。	2・後	60	2			○		○	○	○	
	○	スキー実習B	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別パッチ検定を実施します。	2・後	30	1			○		○		○	
	○	スノーボード実習B	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別パッチ検定を実施します。	2・後	30	1			○		○		○	
	○	潜水土	ダイビングを職業として考えるのに必要な国家資格である、潜水土取得のための知識を学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
	○	MFCスタッフ実習2	MFC（メディカルフィットネスセンター）スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。	2・通	120	4			○	○		○	○	
	○	日本赤十字社救急法B	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	2・通	30	1			○	○			○	
	○	社会体育実習B	学外などにおいて現場の実践的な経験を積み、指導者としての資質を高めます。	2・通	60	2			○	○			○	
	○	業界理解研修	外部などの研修に参加することにより、業界の動向や基礎知識の理解を深めます。	2・通	15	0			○	○			○	
	○	インターンシップ1	スポーツクラブなどでインターンシップを経験します。	2・通	45	1			○	○			○	
	○	キャリアアップセミナーE	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	15	0			○	○			○	
	○	キャリアアップセミナーF		2・通	30	1			○	○			○	
	○	キャリアアップセミナーG		2・通	45	1			○		○		○	
	○	キャリアアップセミナーH		2・通	60	2			○		○		○	
合計			111 科目	3690 単位時間(143単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目間1140時間(56単位)、選択科目560時間（15単位）合計1,700時間（71単位）取得すること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。